

さわやか掲示板

事務所からのお知らせ

さわやか愛知では、新型コロナウイルス感染拡大対策として、4月7日発令の緊急事態宣言に基き、利用者の安心を守り、協力会員の活動の安全を守るため、事務局を4月15日から5月31日まで『在宅勤務』としました。

活動を続けられたのは皆様の連帯と強い意志のおかげだと感謝しています。

5月26日の緊急事態全面解除宣言を受け、6月1日より通常勤務に復旧しましたが、事務所内の「密」を避けるために『時間差勤務』を導入しました。

戸惑うこともあるかと思いますが、もうしばらくの間、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、デイサービスは通常通りです。

事務所の休みについて

定休日 ; 日曜日（終日、留守番電話対応）

夏休み ; 8/13～8/15（電話当番がいます）

年末年始 ; 12/30・12/31（電話当番がいます）

1/1～1/3（終日、留守番電話対応）



～ さわやか愛知も働き方改革に努力しています。ご理解とご協力をお願いいたします。～

募集中！介護職員初任者研修・介護福祉士実務者研修

7月コース

♥詳しい日程はホームページをご覧ください

♥介護職員初任者研修 6月コーススタートしました

ケアワーカーさんの空き時間に聴講をどうぞ（無料です）♥

養成教育部

「Doタイム」終了に伴い、大府北中学校からご挨拶を頂きました。

「平成13年から開講してまいりました[Doタイム]の活動を終了することにいたしました。

講師の皆様のこれまでのご支援・ご尽力、誠にありがとうございました。

「Doタイム」は、地域の方々に講師にお招きし、生徒が興味・関心に合わせて受講・体験すること、北中の特色ある「学びの場」として長期にわたり継続してまいりました。

しかしながら、昨今の社会情勢などから、今後、全ての生徒に希望する講座を開設することが困難になってきております。このような現状を踏まえて協議を重ねた結果、終了させていただくこととしました。

講師の方々のご厚意に支えられ、長年にわたり大府北中の特色ある活動として継続してまいりました。講師の皆様の大府北中と生徒に対する深い愛情と、活動のために費やしていただいた多くのお力添えに重ねて感謝申し上げます。

大府北中学校長 小野田 徳雄

編集後記

3月11日WHOがパンデミックと表明した新型コロナウイルス禍で、生活が大きく変わりました。様々な人々の多様な反応を見て価値観さえも激変しました。新型コロナウイルスが鎮静化して終わるという訳ではないですね。我々の生活の隣にあるリスクを常に認識し、希望をどこに託すのかを考え続けていきたいものです。

特定非営利活動法人 福祉サポートセンター さわやか愛知

大府市共栄町
二丁目420-1
0562-47-2893

ふれあいニュース

2020 夏号

今年度、副理事長に就任した丸山さんからのご挨拶です。

～ 時間をかけて、丁寧に、ひと手間加えて ～

初めての活動は、＜入院の付添＞でした。ヘルパーの資格のない私は心臓が口から飛び出るくらいときどきして先輩ヘルパーさんと待ち合わせしました。先輩ヘルパーさんはとびっきりの笑顔でこう言いました。

「もうすぐ亡くなる方の見守りね。奥さんが喪服のクリーニングや部屋の整頓したいから、その間家族みたいに接するだけ。簡単よ。」

その日から5日間、病室に通いました。初めてもらった手順書には＜呼吸の介助＞と記載されていて、難しいことをやるんだと緊張しました。＜呼吸の介助＞の意味が生物学、介護的に理解できたのはずーとずーと後のことです。

現在講師依頼を引き受ける中で＜終末期介護＞を多くお受けします。施設や病院の泊りや転院、付添、自宅での看取りなど、たすけあいの活動は多彩で、出会った全てのご利用者様とご家族様が私の介護の師匠となりました。たくさんの師匠の顔を思い浮かべながら講義をしています。

2020年5月総会（コロナ対策で中止）よりさわやか愛知の副理事長を拝命しました。

今年度 2020年 さわやか愛知の目標は

「誰もがコミュニケーションは大切だと考えている。せっきくのコミュニケーションも受け取り方、感じ方

が違おうと上手いかなることがある。人を思いやる優しい気持ちでコミュニケーションをとりましょう」です。

時間をかけて、丁寧に、ひと手間加えて、さわやか愛知らしい事務所作りを目標にします。

これからも＜さわやか愛知＞の活動にご理解ご協力をお願いいたします。

丸山 冬芽

ふれあい切符の話 第9回

インターネット全盛の現代、誰もが現実居続けながら、SNS上のコミュニティやオンラインゲームなど、新たなコミュニティに所属することができるという摩訶不思議な時代です。

ただいつの時代も、自分が帰属するコミュニティに役立ちたいというのは、人間の基本的欲求の一つのようです。このようなコミュニティ内で、分業によりそれぞれが得意分野を活かしてより効果的にコミュニティに貢献することが不断に考えだされるのです。前回取り上げたアダム・スミスの『国富論』のように効率的な「分業」が可能となれば、より効果的にコミュニティに貢献できます。そして分業のためには価値交換の手段が必要となり、地域通貨の役割がスポットを浴びる、という訳ですね。

さわやか愛知のふれあい切符の先駆性が、今日だからこそ新しい価値観を示してくれるのですね。